

民社会をめぐる議論の成熟につれて、旧来の「国家的語り」(national narrative)が再編されることになり、過去に対する「崇拜的態度」と「批判的態度」、社会の「階層性を擁護する態度」と「平等性を擁護する態度」の2つの対立項が焦点となった。そしてそれぞれの前者を採用したものとして「国家主義的語り」が、それぞれの後者を採用したものとして「革新的語り」が派生したのである。

しかし21世紀を迎えてからのアメリカ社会では歴史叙述に関して、従来は「革新的語り」を促進する側にいたエスニックマイノリティによって、「国家主義的語り」が実践されるのがしばしばである。たとえば2004年8月にフィリピン系アメリカ人のミシェル・マルキンが刊行した『抑留の擁護』⁶⁾は、第二次世界大戦中の合衆国政府による在米日本人/日系アメリカ人の強制収容を正当化し、ひいては9.11テロ以後の在米ムスリム/アラブ系アメリカ人への政治的・社会的圧力の正当性を主張している。またこれについて読者の意見を募った『ホノルル・スターブリテン』の2004年8月15日付では⁷⁾、日系アメリカ人の中にも「我々は移民の問題を、まず国境を閉鎖することで解決しなければならない」「もし私がこれまでの指導者たちと同じくらい偉大な国家の指導者であったとしたら、ローズヴェルト大統領が行ったように、日系の敵性外国人を一纏めにし、真珠湾で起こったような我が国に対する危害を行わせないようにしておくだろう」といった意見があることが示された。

人びとの文化的背景の多様性が自明のものになった社会において、社会的多様性を支える国家の力が、マイノリティの側から支持されていることになる。そこで採用されている歴史の語り口は、「『革新的語りを可能にするアメリカ』を称揚する国家主義的語り」と言うべきものである。本稿は、1980年代から90年代の多文化主義的な歴史教育の内容をレビューし、このような歴史の語り口を招く論理がそこに内在していたことを指摘するとともに、その論理が1970年代生まれを中心とする日系4世のアイデンティティの構成と対応していることを示唆するものである⁸⁾。

2. 問題の背景

歴史教育を舞台にした「文化戦争」において、新保守主義に立つ人びとが国民教育の必要性を説く際に重要な根拠としたのが、「教育における卓越性に関する国家委員会」が1983年に発表した報告書『危機に瀕する国家』⁹⁾である。この国家委

員会は、レーガン政権初年度の1981年に普通教育準備法と連邦諮問委員会法に基づいて創設され、アメリカにおける教育水準の状況把握と具体的な改善策提言を目的とした評価調査を行った。報告書では、スプートニク・ショック以後のアメリカの教育機能が過去の実績に比して、またほかの先進諸国の現状と比しても、質的に低下しており、国是であったはずの「学習社会」という社会形態が動揺しているとされた。とくにカリキュラムおよび教科書の内容に関しては、1976~81年のそれが1964~69年のそれに比べて「中心的な目的が分からないほどに水増しされ、拡散している」とした。その打開策は「現代的なカリキュラムの中核」をつくり、「より厳密な内容が確保されるよう、教科書その他の指導・学習教材を刷新する」ことに求められた。1980年代の新保守主義的教育言説¹⁰⁾は、ギリシア・ローマに起源を求めることができる西欧文化の蓄積がカリキュラムの中核の座を追われたことに違和感を表明し、その復権を要請するものであり、教育の多文化化を国民教育重視の立場から批判する際の原理を提供したという点で、『危機に瀕する国家』の重要性は大きい。

クリスティン・スリーターとカール・グラントによる1980年代の歴史教科書の内容分析は、この「バックラッシュ」の効果を次のように表現している。

[多文化的な教育内容を教科書に求める]かの動きは止んでしまったのかも知れない。我々は反動の時代に入ったのかも知れず、それはより白人・男性主義的なカリキュラムへの回帰だということができる。このことは、浅薄な社会認識と狭量な歴史および文化の感覚しか持ち合わせない市民(citizens)をつくり出し、下層階級の子供たちや非白人の子供たちを学校から疎外することになるという意味で、極めて危険なことになるだろう。教科書は注意深く吟味される必要があるし、アメリカの多様性とその抑圧の歴史について有効に子供たちを教育できないような教科書は、購入され使用されるべきではないのである¹¹⁾。

ただしこの一節において興味深いのは、スリーターらが白人中心主義へのカリキュラムの回帰傾向を批判すると同時に、彼らもまた「市民をつくり出す」という歴史教育の機能自体は議論の前提要件としている点である。もちろん彼らが重視するのはより幅広い社会科学的知識による社会の再構成であり、そのために